

## 交通安全指導員の今後について



交通安全指導の様子



**問** 指導員は、交通安全の啓発・指導のみだけでなく、学校の登下校の時の声かけや学校や家庭での心配事などを聞き、日常の会話で児童と交流を深めている。

また、犯罪の抑止でも大切な役割を担っている。

帯広市では、指導員の配置の存続が問題となっているが、幕別でも同様に廃止

されると通学の安全確保が心配である。従って交通安全指導員の今後について伺う。

**町長** 交通安全指導員の、廃止の考えはないが、宅地開発が進められ、児童数が増える地区や減る地区があり、指導員の配置箇所の見直しについて、教育委員会や学校と協議していきたい。

## 学童保育所の指導員について



**問** 子育て世代の収入が抑えられ、共働きや一人家庭が増えていく中で、学童保育を必要とする家庭の子どもが増えている。学童保育所は家庭に変わる毎日の生活の場でもある。子どもたちの体や心の状態、家庭環境の把握も含めた保護者との緊密な連携、子どもたちと指導員の信頼関係がなくては目的が果たせない施設である。従って次の2点について伺う。

- ①学童保育所の指導員に基準を設けること。
- ②指導員の交流・研修を行うこと。

**教育長** ①町内5カ所の学童保育所の基準となる指導員内容は、遊戯、自主学習を通じた指導が主なものだが、それぞれの施設の状況や通所児童数が異なり、通学区域の小学校との連携に重きを置いて、地域事情に即した運営形態をとることから、それぞれの学童保育所の特色であると考えている。

②年3回の指導員会議での意見交換により、各学童保育所間での運営方法等に極端な違いが生じないように努めている。

## 子どもが健全に成長するための教育を



**問** 大人の性非行と呼ばれるセクハラ、痴漢、DVなど、またインターネットや雑誌などで性情報が流され、子どもや若者に関心のある性の知識が歪められている。科学的で人権の視点を重視した性を語る必要がある。従って次の2点について伺う。

- ①小中学校での性教育の状況は
- ②学校、PTA、地域で連携した取組みの方向性は

**教育長** ①各学校では、指導要領に基づき、性教育計画をたて保健指導年間計画に位置付け実施している。小学校では学級活動や保健の時間に年間3時間程度

実施し、担任の指導により、学習しているほか、理科や道徳などで、性に関する内容を結びながら総合的に学習している。

中学校では、担任や養護諭から、学級活動、総合の時間、保健体育の授業の中で指導を受け学習し、道徳の時間では生命を尊重することや、男女のあり方、親子関係から家族への理解など、社会における自分を知る学習を行っている。

②児童生徒に対する性教育は、学校だけでなく、社会全体の課題として位置付け対応しなければならぬと考え、最も身近な大人である保護者が家庭でできる性教育も大変重要であると考えているが、親として子どもと話し合い、指導するには一定の知識や指導技術も必要となることから、そのための研修として、PTAの研修会を活用し性に関する講演会を開催するなど各家庭でも家庭の教育力を生かせる取り組みを行っている。

小学校では学級活動や保健の時間に年間3時間程度

実施し、担任の指導により、学習しているほか、理科や道徳などで、性に関する内容を結びながら総合的に学習している。